

安全・安心を支える劣化対策！！

第252回ゴム技術シンポジウム

ゴム・エラストマーの安全、安心を支える劣化対策

主催：日本ゴム協会研究部会 環境劣化研究分科会

協賛：日本化学会、高分子学会、自動車技術会、石油学会、繊維学会、日本機械学会、日本接着学会、日本合成樹脂技術協会、日本材料学会、日本トライボロジー学会、日本レオロジー学会、日本複合材料学会、プラスチック成形加工学会、マテリアルライフ学会（順不同）

.....
ゴム・エラストマーは自動車・インフラ・各種産業製品から、医療・レジャー・日用品に至る広範な用途で重要な役割を担っていますが、使用環境において劣化が進行し、事故やトラブルを引き起こすこともあります。ゴム製品を安全、安心に使用するためには、劣化を抑制し、耐久性や製品寿命を延ばすことが不可欠です。本シンポジウムでは、劣化のメカニズム解析や分析手法を紹介するとともに、ゴム製品による耐久性向上策を紹介いたします。講師は各分野の第一人者であり、劣化の基礎から応用まで幅広い知識を習得する事ができます。

日時：2019年2月1日（金）9：50～17：00

場所：東京電業会館・地下ホール（東京都港区元赤坂1-7-8 TEL：03-3403-5181代）

受講料：日本ゴム協会会員・協賛団体会員 23,760円、日本ゴム協会学生会員 5,400円

受講者が日本ゴム協会の正会員でない場合でも、ご所属の会社が法人としてゴム協会会員（賛助会員）の場合は2名まで会員扱いの受講料で受付けます。

シニア制度対象会員 11,880円（60歳以上の正会員）、会員外 32,400円

申込方法：弊会ホームページ <http://www.srij.or.jp/>よりお申込みください（定員80名）。

送金方法：銀行振込（三井住友銀行 日比谷支店 普通No.7100847 一般社団法人日本ゴム協会）。

振込み手数料は受講者側でご負担ください。一度ご入金された受講料は返金いたしかねますのであらかじめご了承ください。

問合せ先：一般社団法人日本ゴム協会 第252回ゴム技術シンポジウム係

（〒107-0051 東京都港区元赤坂1-5-26 東部ビル1階

TEL：03-3401-2957 FAX：03-3401-4143 E-mail：kenkyuubukai@srij.or.jp）

9：50～10：00	開会のあいさつ	環境劣化研究分科会主査 藤井 信彦 【座長】デンカ㈱ 藤井 信彦
10：00～10：55	NRおよび脱タンパク質化NRの劣化挙動	天然ゴムの劣化が試料の作製条件に依存することを講述する。 長岡技術科学大学 河原 成元氏
11：00～11：55	高分子の熱劣化の評価方法	早稲田大学 伊藤 政幸氏 熱劣化における酸化層の測定法と酸化劣化の活性化エネルギーの求め方を解説する。 【座長】（公財）鉄道総合技術研究所 伊藤 幹彌
12：50～13：45	架橋ゴムの疲労・劣化と破壊挙動	愛知工業大学 福森 健三氏 ゴムの破壊を支配する構造変化に関する寿命分布解析や分子運動解析を紹介する。
13：50～14：45	ゴム製品の劣化防止に不可欠なゴム薬品	川口化学工業㈱ 大貫 毅氏 ゴムの劣化を防止する有機ゴム薬品の使い方や配合面から説明する。 【座長】早稲田大学 伊藤 政幸
14：50～15：45	NMRなどを用いたゴムの劣化解析	（一財）化学物質評価研究機構 齊藤 貴之氏 NMR法やESR法などを用いたゴムの劣化解析について紹介する。
15：50～16：45	ゴム・プラスチックに与えるオゾンガスとオゾン水劣化の違い	元（一財）化学物質評価研究機構 大武 義人氏 近年の地球環境悪化はオゾンガス増加を招き、ゴムに強力なダメージを与えている。一方湖、川の汚れを完全に除去するためにオゾン水処理の手法が上水場で、また病院では医療器材の洗浄・消毒に多用されているが、ゴム・プラスチックへのダメージが大きい。これら両者の劣化レベルのメカニズムの違いについて解説する。
16：50～	閉会のあいさつ	環境劣化研究分科会副主査 伊藤 幹彌

※プログラムは一部変更になる場合がございます。

☆お申込みはホームページ <http://www.srij.or.jp/>からお願いします。